

令和4年度 大学院医学研究科博士課程 及び
医学院修士・博士課程学位記伝達式告辞

本日ここに学位記を授与される皆さん、おめでとうございます。この日を迎えられた皆さんに対して、北海道大学大学院医学研究院・医学院の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。このたび、医学院修士課程19名、医学研究科・医学院博士課程52名の合計71名の皆さんが学位を取得されました。皆さんが研鑽に励まれ、修了のこの日をお迎えになったことに敬意を表します。

今回、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、医学院学位記伝達式を縮小したかたちで挙行させていただきました。皆様におかれましては、何卒、御理解賜りますようお願い申し上げます。

皆さんは、自身で設定した課題について、自ら実験し、あるいは調査し、そして論じ、結論を導き出しました。すなわち、新しい知を自ら生み出すということに挑戦したことになります。多くは、たやすい道のりではなかったと思います。しかしその中で、学問の本質に直接触れることができ、感動や喜びを感じることができたのではないかと思います。研究の成果を修士論文あるいは博士論文としてまとめ、主査・副査の審査に合格し、学位を取得することができたのです。そして、皆さんの成果は皆さんだけのものではなく、多くの人たちの共有の知の財産として、永く引き継がれていくものとなります。

このような学び舎での知の創造とともに、皆さんの多くは「国際性の涵養」という北海道大学の教育理念に基づいた素養を身に付けてきたことと思います。北海道大学は、皆さんもご存知のように札幌農学校をその起源としています。欧米の文化と科学技術を導入し、外国人教師の英語による授業を行った札幌農学校は、設立当初から多様な世界にその精神を開いておりました。それ以来、多くの本学の卒業生・修了生が海外において活躍し、国際性の涵養という理念が、さまざまな形で受け継がれています。

今日、私達人類は数多くの課題に直面しています。これから皆さんは、それぞれの進む道において、予測のつかない状況に直面した時、自らの生涯を生き抜く力を持っているかが重要となります。未来をできるだけ正確に予測し、不安を和らげることは、皆さんが培ってきた学問が社会に果たしてきた一つの側面でもあり、また皆さんが果たさなければならない使命でもあります。

最後に、北海道大学医学院は常に、皆さんと共にあります。大学院修了は大学との別れではなく、新たな協働の始まりです。どうか、皆さんには、これからも、歴史と伝統のある本学の成長・発展に積極的に関わって下さるよう、心からお願い申し上げます。皆さんがそれぞれの分野で元気に活躍されることを

祈念して、私の告辞とします。

令和5年3月23日

北海道大学大学院医学院長 畠山鎮次